

校外学習 5月 伊丹市内史跡巡り

学習実施日 2026年5月29日（金）

担当講師 伊丹市ボランティアガイドさん

行程 有明城址（集合）→大溝跡・伊丹郷町→旧岡田家住宅・旧石橋家住宅→長寿蔵見学・食事



ガイドさんからの説明の様子

図や写真が入った資料を見せてもらいながら、非常にわかりやすい説明で教えていただいた。廃城・破城”の違い、郷町、総構えなどの言葉も習い、皆ウオ〜ッ！郷町の始まり・発展の様子などを垣間見ることが出来、大変楽しかった
ほんととガイドさん 有難うございました

学習内容

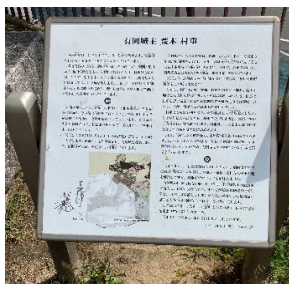
1, 有岡城の歴史

有岡城は南北朝時代に伊丹氏により建てられる、当時の名前は伊丹城

1574年織田信長の命により荒木村重が伊丹城を攻め落とし地名をとって有岡城と改名・城下町として改造

有岡城は、城の”主郭”、家臣の”侍町”、町民の”町屋地区”に区分し、周囲を土塁で囲んだ【総構え】の城となった

その後信長に反旗を翻した村重は信長の包囲攻撃を受け城を抜け、逃げていく。城主を失った有岡城は豊臣秀吉の命により”廃城”となった。



←有岡城の説明看板

集合時間までに説明書きもちゃんと読みこみ 事前予習はバッチリ！ →



2, 郷町として繁栄した歴史

城を失ったこの地区の町民は、その後もこの地にとどまり、主に商業を中心に発展していく

江戸時代に町民による自治が開始され、主に酒家が中心となり栄えていった。

旧岡田家住宅では酒づくり・酒販売両方を行っていた当時の様子を見ることが出来る

山中鹿之助の子孫はこの地で酒づくりを学んでいた際、灰を酒の中に入れてしまったのが清酒の始まり(?)

伊丹の酒『双白澄酒』を、神崎から伝法経由で樽廻船で江戸に運ぶルートを作った結果、大人気となり番付け表の上位を独占した



南北に1.7Km、東西に0.8Kmの規模！
能勢街道もこの郷町の



旧岡田家での酒販売
偉い人はこの座敷に通してもらえたとか。貧乏飲ん兵衛は買うだけか〜



江戸時代はこんな釜で米を蒸していた



旧石橋家の軒下を借りて面白い説明を聞きながら一休み

3、伊丹の酒

麴米掛米の両方に精白米を使う” 諸白(双白)” 米麴・蒸米・水を3回に分けて仕込む” 3段仕込み” それと澄んだ酒を作る” 清酒(澄酒)” が 画期的だった
「剣菱」は将軍家の御膳酒に、また「白雪」は宮内庁御用達になったとも
その後西宮で、宮水が発見され、酒質が飛躍的に向上し、主流が灘に移っていった



玄米から精米に
長寿蔵には足ふみ精米機も
展示されていた



酒づくりの道具 これらは本当に当時酒づくりに使われていた実物だとか。丸みを帯びた木肌をみると長い年月を感じることが出来る



伊丹・小西酒造の代表銘柄 白雪 の有名なキャッチフレーズ

白雪は、輸送途中で見た富士の美しさに感動し命名されたとか。1635年頃のはなしとの事とその感動は今の比ではないように思う

このフレーズは、昭和の初期に本格的に広告を出す際に作られたとの事。耳なじみある方も多いのでは？

これらの銘柄、全部伊丹の酒です。皆さんはいくつ位飲んだことがありますでしょうか？

